

容器包装の3R推進のための自主行動計画 2010年フォローアップ報告

2010年12月

3R推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PETボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

事業者による3R推進の2009年度実績概要

- リデュース：6素材で2010年度目標を上回っています。
- リユース：リターナブルシステムの調査・研究を継続し、モデル事業も展開しています。
- リサイクル：4素材が2010年度目標を上回っており、全体として着実に進展しています。

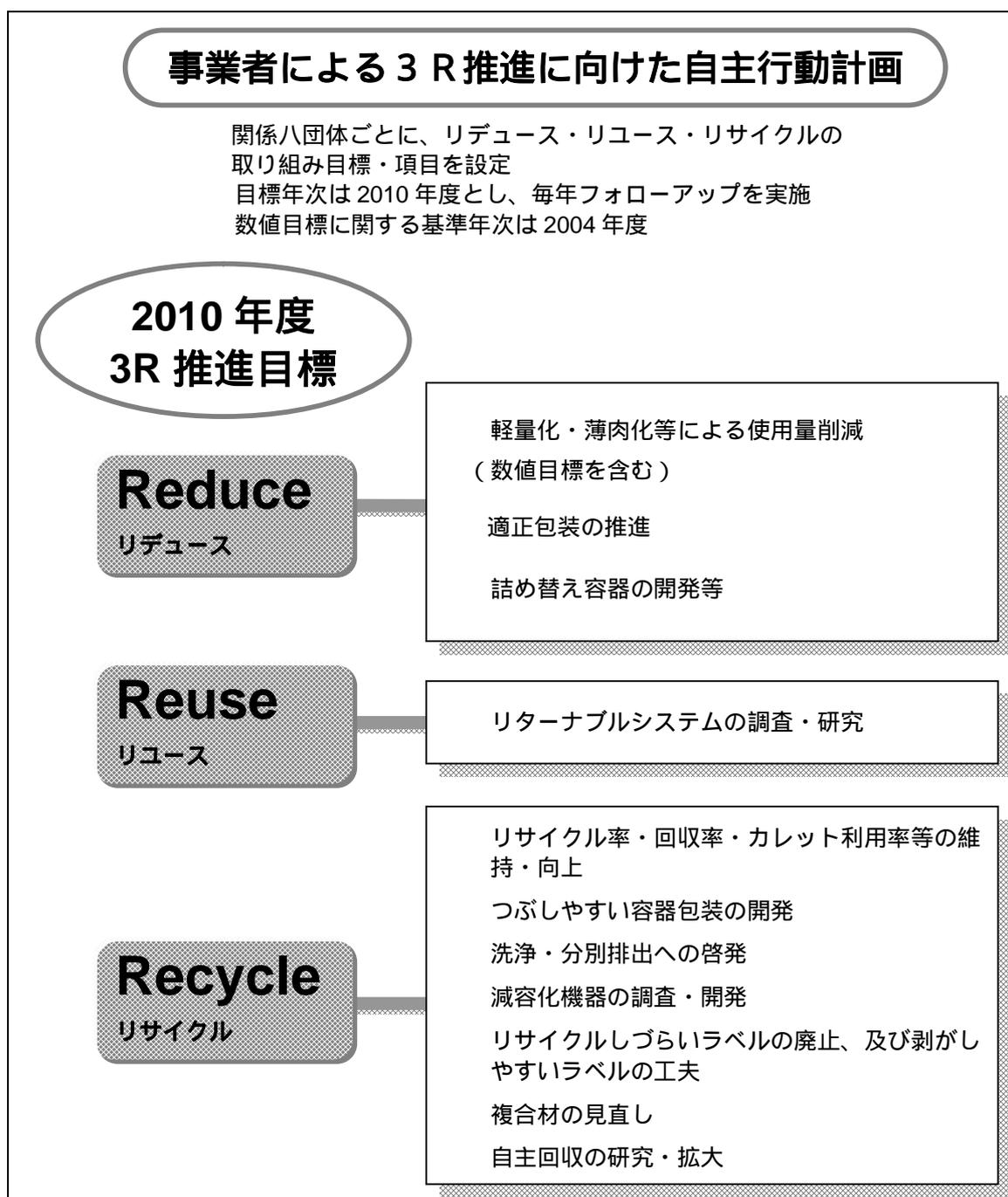
主体間の連携に資する取り組み

- 八団体共同の取り組みの展開
 - ・3Rリーダー交流の成果を全国自治体に発信
 - ・独自企画の連携イベント開催：フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会
 - ・各種展示会への共同出展
 - ・ACジャパン（旧：公共広告機構）で容器包装のリサイクルをPR
- 共通テーマ（普及啓発と調査研究）に基づき各団体の取り組みを展開

はじめに

容器包装に係るリサイクル八団体で構成される「3R推進団体連絡会」(以下、「連絡会」という。)は、2006年(平成18年)3月28日に「容器包装の3R推進のための自主行動計画」(以下、「自主行動計画」という。)を公表し、各事業者の自主的な取り組みによる容器包装の3R推進、及び主体間の連携に資する取り組みの推進を表明しました。

自主行動計画は2010年度を目標年次とし、下図のとおり「事業者による3R推進に向けた自主行動計画」及び「主体間の連携に資する取り組み」を2本の柱としています。このフォローアップは、自主行動計画の4年度目に当たる2009年度の取り組み結果をまとめたものです。



主体間の連携に資するための行動計画

消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ、消費者・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開

関係八団体共同の 取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、
フォーラムの開催
セミナーの開催
各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成
等による、情報提供の拡充
エコプロダクツ展への共同出展

各団体が取り組む 共通のテーマ

情報提供・普及活動
(各団体の既存の取り組みの活用も含む)
・環境展等の展示会への出展協力及び充実
・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

調査・研究
・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究会への協力
・分別収集効率化等のモデル実験への協力
・リターナブルびんのモデル実験の実施
・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
・消費者意識調査の実施

1. 事業者による 3 R 推進の 2009 年度実績概要

事業活動における容器包装の 3 R（リデュース・リユース・リサイクル）推進については、2004 年度を基準年次、2010 年度を目標年次として、関係八団体ごとに数値目標・取り組み目標等を立てています。2009 年度取り組み実績の概要は以下のとおりです。計画及び実績の詳細については、各団体の発表資料をご参照ください。

1.1 リデュース

6 素材で 2010 年度目標を上回っています。

リデュースは地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられており、当連絡会でも容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んでいます。

軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）

容器包装は様々な形状がありますので、リデュースの数値目標は各容器の特性に合わせた指標を採用しています。

2009 年度のリデュース実績は表 1 に見るとおり、6 素材にて 2010 年度目標を上回る結果となっています。

今後も容器包装に本来求められる機能である「安全・安心」を維持しつつ、技術開発や設備投資等の取り組みを進めていく所存です。

表 1 リデュースに関する 2009 年度実績（2004 年度比）

素材	2010 年度目標 (2004 年度比)	2009 年度実績	(参考) 2008 年度実績
ガラスびん	1 本当たりの平均重量を 1.5% 軽量化する。	1 本当たりの平均重量を、 1.8% 軽量化 (参考：2009 年に新たに軽量化された重量は 1,472 トン 6 品種 16 品目)	1 本当たりの平均重量を、1.4% 軽量化
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本当たりの平均重量を 3% 軽量化する。	主な容器サイズ・用途計 15 種のうち 13 種で 0.3% ~ 15.0% 軽量化。8 種で目標の 3% を達成。	主な容器サイズ・用途計 15 種のうち 13 種で 0.1% ~ 11.0% 軽量化
紙製容器包装	2% 削減する。	11.4% 削減	1.3% 削減
プラスチック製容器包装 1	3% 削減する。	6.4% 削減	4.4% 削減
スチール缶	1 缶当たり平均重量で 2% 軽量化する。	1 缶当たりの平均重量を 3.4% 軽量化	1 缶当たりの平均重量を 2.0% 軽量化

1 今年度より削減率として算出。

(表1 続き)

素材	2010年度目標 (2004年度比)	2009年度実績	(参考)2008年度実績
アルミ缶	1缶当たり平均重量で1%軽量化する。	1缶当たりの平均重量を2.1%軽量化	1缶当たりの平均重量を0.8%軽量化
飲料用紙容器	重量を平均1%軽量化する。	現状維持	現状維持
段ボール	1㎡当たりの重量を1%軽量化する。	1㎡当たりの重量を1.4%軽量化	1㎡当たりの重量を0.9%軽量化

適正包装の推進 / 詰め替え容器の開発等

リデュースのための包装の適正化、詰め替え容器の開発等も各企業により進められています。PETボトルリサイクル推進協議会では、PETボトルの環境配慮設計に関する調査を行い、33件の内容を事例集にまとめました。また、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、会員団体、及び傘下の各事業者を通じ、改善事例の結果を3R事例集として取りまとめ、関係者に公表しています。

紙製容器包装リサイクル推進協議会でも、紙製容器包装の3Rで実績を上げている各社の成果をまとめた「3R改善事例集第3版」を制作し活用することで、業界全体のレベルアップを図るべく取り組みを進めています。

1.2 リユース

リターナブルシステムの調査・研究を継続し、モデル事業も展開しています。

ガラスびんリサイクル促進協議会では、平成21年度環境省地域省エネ型リユースモデル事業として、居酒屋チェーン企業と連携して、約400店舗を対象としたPB清酒のリユース化事業の取り組みをおこないました。

また、量販店市場におけるリターナブルびん商品の取扱いや空びんの回収体制の可能性について、主要な量販店・びん商連合会と研究会を実施しました。

◇PETボトルリサイクル推進協議会は、2008年3月から環境省主催の「PETボトルを始めとするリユース・デポジット等の循環的利用に関する研究会」に参加し、活動しています。2009年度は、実証実験の課題とされたリユース時の食品衛生と品質確保、および、環境負荷(LCA)の分析について検討いたしました。特に安全性の検証については、米国食品医薬品局(FDA)のガイドラインに従いPETボトルリユース時の容器の安全性試験をガラスびんと比較して検証を行いました。その結果、PETボトルは材質中に移行した化学物質の残留が見られ、溶出試験、残留試験で設定した許容限度内に収まりませんでした。この結果を「日本食品衛生学会」の学会誌に寄稿することとしています。

また同研究会は、消費者の誤用を想定した実験(消費者誤用実験)を別途実施し、使用代理汚染物質は洗浄後残留が見られ溶出試験、残留試験で設定した許容限度内に収まらないこと、そして誤用されたリユースPETボトルを検知するための分析装置を用いた品質保証が必要であると結論されました。

一方、LCA手法によりリユースPETボトルとワンウェイPETボトルが比較評価され、「リユ

ース PET ボトルは、空ボトルの回収率が 90%以上で、輸送距離が 100km 未満という限られた条件下でのみ、ワンウェイ PET ボトルより環境負荷が小さい」という結果を公表いたしました。

1.3 リサイクル

4 素材が 2010 年度目標を上回っており、全体として着実に進展しています。

リサイクル率・回収率等の維持・向上（数値目標）

リサイクル率・回収率の 2009 年度実績は表 2 に示すとおりです。

資源リサイクルは景気や為替動向の影響を受けやすい面もあり、素材によっては一進一退の状況が続いていますが、全体として着実に進展しています。2009 年度時点にて目標の達成がなされていない素材についても、来年度の目標達成に向けてさらなる取り組みを続けているところです。詳細は次項をご覧ください。

表 2 リサイクル率・回収率に関する 2009 年度実績

素材	指標	2010 年度目標	2009 年度実績	(参考)
				08 年度実績 (上段) 04 年度実績 (下段)
ガラスびん 1	リサイクル率 (カレット使用率)	70%以上 (75%以上)	68.0% (74.2%)	65.0% (74.2%)
				59.3%
PET ボトル	回収率	75%以上	77.5%	77.9%
				62.3%
紙製容器包装 2	回収率	20%以上	行政回収 13.9% (行政+集団 19.1%)	14.2% (19.5%)
				13%
プラスチック製 容器包装	収集率	75%以上	61.3%	59.0%
				41.3%
スチール缶 3	リサイクル率	85%以上	89.1%	88.5%
				87.1%
アルミ缶 4	リサイクル率	90%以上 (85%以上)	93.4%	87.3%
				86.1%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	43.5%	42.6%
				35.5%
段ボール	回収率	90%以上	100.6%	95.1%
				87.2%

- 1 ガラスびんは「カレット使用率」(原材料総投入量に占めるカレット(再生材)使用比率)を参考指標として採用。
- 2 紙製容器包装は、集団回収の回収率実績を追加した。()内は行政+集団合計の回収率。
- 3 スチール缶は、缶スクラップ以外の規格として再資源化されているスチール缶の一部を調査し、更にリサイクル率の精度をあげた。
- 4 アルミ缶は 2007 年に 2010 年度目標の見直しを行った。()内は 2006 年の当初目標。

リサイクル推進のための事業者の取り組み

事業者においては、リサイクル性の向上のための技術開発や各種の普及・啓発活動及び自主回収の拡大・研究活動を展開しました。主な事例を表3に示します。詳細は各団体資料をご参照ください。

表3 リサイクル推進のための事業者の取り組み事例

項目	取り組み事例
リサイクル性の向上	<p>つぶし易い容器包装の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙箱にミシン目を入れて廃棄時に折りたたみ易くする工夫や、複合容器だが単一素材に分離容易な容器の開発などが取り組まれている。(紙製容器包装) たたみ易い段ボールの具体例を調査し、ホームページに掲載した。(段ボール) <p>減容化可能容器、複合素材についての研究・開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> 減容化容器の開発、分離しやすい容器の研究・開発、容器包装の性能を通じての軽量等について取り組んだ。(プラスチック製容器包装) <p>リサイクルしづらいラベルの廃止、はがし易いラベルの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの3Rを推進するための自主設計ガイドラインに基づき、びんメーカー、主要ボトルー団体に協力要請を引き続き行った。(ガラスびん) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった会員外の企業にその遵守を要請し、是正を図った。2009年度は、1社2製品について無色化への改善を行う旨の回答が得られた。(PETボトル)
洗浄・分別排出等への普及啓発	10ページの「各団体の情報提供・普及活動」をご参照ください。
自主回収の研究・拡大	<ul style="list-style-type: none"> 小売酒販店で酒パックを回収するエコ酒屋の取り組みなどを進めている、NPOと協働した「酒パックリサイクル促進協議会」の活動を支援している。(紙製容器包装) 優れた回収団体・学校等を毎年表彰することにより、集団回収の支援・拡大を目指す。(アルミ缶、スチール缶) 集団回収によるリサイクルを促進するため、集団回収の歴史と現状、実践方法、全国の事例等をまとめた『集団回収マニュアル～協働型集団回収のすすめ～』を発刊した。(スチール缶) 紙パック回収ボックスを学校、自治体、市民団体、作業所、企業およびスーパー等の施設へ3,855個(過去累計で18,070個)配付。回収の効果的な実施に向けWEB調査を行い、家庭からの紙パックの排出実態把握を実施(飲料用紙容器)

1.4 その他識別表示等の推進

その他各団体においては、自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進、容器包装への識別表示の実施率の向上などを展開しています。詳細は各団体資料をご参照ください。

2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要

2.1 関係八団体共同の取り組み

容器包装リサイクル制度の下、消費者・自治体・事業者による主体間の連携を進めることが求められています。当連絡会では事業者としての自主行動計画推進と並行して様々な主題間の連携に資する事業に取り組んでまいりました。

表4がこれまでの主な取り組み実績です。フォーラムやセミナーは、当初より継続的に取り組んでおり、全国的に認知度が深まりつつあります。また、消費者リーダーのみなさんとの交流・共同の成果として2010年7月には小冊子「リサイクルの基本」を発刊し、全国自治体に配付しました。2008年度から2009年度にかけての取り組みの詳細については、次ページの参考1をご参照ください。

表4 主体間連携のための取り組み

年 度	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年 (予定含む)
3R 推進 フォーラム	横浜市 8/29・30	神戸市 9/19・20	東京都 10/6・7	京都市 10/22・23	さいたま市 10/25・26
3R セミナー	東京都 '07/2/28	北九州市 10/19 川崎市 '08/2/18	京都市 '09/3/7	仙台市 '10/2/2	名古屋市 '11/2/5
3R リーダー 交流会		交流会を 4 回実施	交流会を 5 回実施	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 を作成	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 完成・配付
展示会への 共同出展	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/19～21 名古屋市	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/17～19 北九州市	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/24～26 山形市	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/16～18 千葉市	2010 東京国際包装展 (東京パック2010) 10/5～8 東京都
	エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	エコプロダクツ展 12/9～11 東京都
AC 支援によ る啓発事業			なくなるといいな 「ごみ」 という言葉	リサイクルの 夢	ちょっとだけ バイバイ
マスコミ セミナー・ 交流会				消費者の3R 行 動に影響するマス コミ報道を考える 9/18 東京都	マスコミ関係者と 3R 推進団体が 語り合う懇談会 8/26・11/26 東京都
その他	共通ポスター 作成 各団体のホーム ページリンク化		ホームページ の開設	消費者意識 調査実施	容器包装3R 制度研究会 の開催

(参考1) 主体間の連携に資するための関係八団体共同の取り組み

「リサイクルの基本」を全国に配付

2007年度より、消費者・事業者のネットワーク構築の場として、消費者リーダーと事業者との交流会を実施しています。昨年度の交流会では、様々な市民にとって必要と思われる情報の提供ツールについて、消費者リーダーと各2回の交流会とワーキングで具体策を検討しました。

その結果まとめられたのが、3R啓発小冊子「リサイクルの基本」です。

冊子は2010年7月に全国自治体に配付しましたが、その後も好評につき配付の要望が相次ぎ、3000部を増刷し、全国自治体や市民団体にご活用いただいています。



小冊子「リサイクルの基本」

フォーラムの開催

3R推進団体連絡会の「主体間の連携に資する取り組み」の一環として、自治体担当者の方を主な対象とするフォーラムを開催しました。このフォーラムでは、容り法の改正を経て、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それらに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形を目指したらよいか話し合い、方向性を共有することを目的としています。

●2010年度フォーラム in さいたま(10月25、26日)

今年で5回目となるフォーラムは、「よりよい容器包装リサイクル制度を目指して」をテーマに、10月25日・26日の2日間にわたり開催されました。

初日は会場である埼玉会館(さいたま市浦和区)に178名の来場者を迎え、



フォーラム全体会

鳥取環境大学環境マネジメント学科 田中勝教授の基調講演や4つの分科会が行われました。分科会のテーマは、容り法制度のありかたやプラスチックのリサイクル、3R連携手法などです。



フォーラム分科会

2日目は42名の参加で、さいたま市東部リサイクルセンター、志木地区衛生組合利彩館の視察と意見交換を行いました。

セミナーの開催

容器包装に関する消費者・自治体・事業者の取り組みの実態を知ること、地域での3R活動をするに当たっての課題解決など、様々な主体と共によりよい取り組みにつなげていくためのきっかけづくりとなることを目指してセミナーを開催しています。

●2009年度3Rセミナー in 仙台(2010年2月2日)

2009年度は、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで「2010年容器包装3R連携 市民セミナー in 仙台」を開催しました。東北大学 吉岡敏明教授の基調講演、3R推進団体連絡会の活動報告の後、パネルディスカッションが行われました。



セミナー風景(仙台市)

展示会への出展

●東京パック2010への出展

今年度は、アジア最大級のパッケージ総合展である「2010 東京国際東京展(東京パック2010)」(2010年10月5日～8日)に初の出展を行いました。



東京パック2010 共同出展

●エコプロダクツ2010への出展

昨年に引き続き、日本最大の環境イベントであるエコプロダクツ2010(2010年12月9～11日)に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展を行いました。(写真はエコプロダクツ2009のものです)



エコプロダクツ2009 共同出展

マスコミ参加の交流会を開催

容器包装の3Rに向け、事業者は何を伝えるべきか、マスコミはどんな情報を必要としているのか、それらを消費者にどうつなげていくのか・・・このようなテーマを話し合うため、マスコミ関係者との懇談会を8月26日(主婦会館)11月26日(新橋ホテルユニゾン)の2回、開催しました。「NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット」との共催です。

ACジャパン支援による啓発

3年目を迎えたACジャパンの支援事業では、「ちょっとだけバイバイ」をテーマに、テレビ・ラジオのスポット広告や新聞・雑誌広告、交通広告を展開しました。

このような多様な媒体を活用した広告は、普段ごみ問題にあまり関心を持っていない層にも届く、事業者団体ならではの効果的な普及啓発活動と位置付けており、2010年度も引き続きACの支援を受け広告を展開しました。



2010年度AC支援広告

なお、昨年度のAC広告「リサイクルの夢」は、環境省等が主催する「第13回環境コミュニケーション大賞」で、テレビ環境CM部門優秀賞を受賞しました。



環境コミュニケーション大賞優秀賞を受賞した2009年度広告

容器包装3R制度研究会の開催

よりよい容器包装3R制度に向けた課題や主体間の連携のあり方を研究するため、今年度は「容器包装3R制度研究会」を開催中です。

本研究会は現時点では非公開とさせていただいていますが、学識者や市民、自治体のみならずご参加いただき、より良い制度のあり方をめぐり活発な意見交換を続けていきます。

2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「各種情報提供や普及活動の推進」「調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2009年度も引き続き、多様な各種啓発活動、交流活動、調査研究活動が展開されました。主な取り組み内容は以下の参考2をご参照ください。

(参考2) 各団体の情報提供・普及活動 / 調査・研究活動の例

情報提供・普及活動

●ポスターコンクールの実施

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、次代を担う子供たちに、「ガラスびん」のことを良く知ってもらい、リサイクルの大切さを認識してもらうために、小学校および中学校を対象とした「ガラスびんリサイクル・ポスターコンクール」を新たに企画し、実施しました。



ポスターコンクール

●広報誌の発行

◇PETボトルリサイクル推進協議会では、3R推進情報を幅広く提供するため広報誌RINGを年2回発行しています。24号では「東京23区PETボトル回収の“いま”」をテーマとし、25号では、特集記事として3R推進マスター北野大氏のインタビューを行っています。詳細はホームページにてご覧いただけます。



RING24号(2009年10月発行)



RING25号(2010年5月発行)

●3R推進のパンフレット・パネルを作成・活用

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、「3R改善事例集第3版」発行の他に、パンフレット「紙製容器包装のリサイクルについて」と、広報パネルを作成しました。紙製容器包装の3R改善事例や、リサイクルルートなどの情報を分かりやすくまとめました。主体間連携のための情報提供ツールとして活用・配布しています。



パンフレット



パネル

●自治体との意見交換会を実施

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、2010年1月福島市において自治体関係者55名、事業者41名で第4回の交流会を開催し、意見交換を行いました。



自治体との意見交換会

●集団回収・環境学習の支援

◇スチール缶リサイクル協会では、コミュニティ活性化・社会的コスト削減・環境意識向上等のメリットがあるスチール缶の集団回収について、それを実施している地域団体への表彰・支援を継続実施しました。また、集団回収を通して優れた環境学習を実施している、または計画している小中学校への表彰・支援を継続実施しました。



スチール缶集団回収支援表彰



小中学校環境学習支援表彰

●3R推進功労者表彰への推薦

◇アルミ缶リサイクル協会では、3Rに取り組む団体、個人12件を3R推進協議会に推薦し、そのうち1件は文部科学大臣賞、9件が3R推進協議会会長賞となり、大臣賞の「京都市立蜂ヶ岡中学校」は学校独自で環境宣言を行う等で京都環境賞を受賞するなどが評価されました。

また、全国の回収拠点より回収量・継続年数で優秀な小・中学校を推薦していただき、80校の表彰を行いました。この表彰は、平成5年より毎年続けられ、総数1000校を超えております。



文部科学大臣賞を受賞した京都市立蜂ヶ岡中学校

地域会議・講習会などの開催と啓発ツールの製作配付

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、紙パックリサイクル促進に向け、全関係主体を招集して、意見交換会(都内)、地域会議(県単位)を開催した他、市町村単位で市民対象のリサイクル講習会、学校での出前授業を展開しました。また今年度紙パックリサイクルの啓発ツールとして「牛乳パックン探検隊」のキャラクターDVDを制作し、関係ルートを通じ全国に配付。子供にも親しみ易く紙パックの環境特性やリサイクルの大切さを広く訴えました。



地域会議(上)・出前授業(下)

●科学館等のイベントへの協力による普及・啓発活動

段ボールリサイクル協議会では、2010年3月6日(土)～7日(日)に山梨県立科学館(山梨県甲府市)で「遊んで学ぼうリサイクル!ダンボールアート遊園地」というイベントが行われ、展示物、段ボールリサイクルの映像等を提供しました。その後盛岡市子ども科学館の同様のイベントにも協力しています。



段ボールアート遊園地

●ガラスびんマテリアルフローの精度向上

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、ガラスびんの生産から消費・回収・再資源化の流れを再分析し、行政回収と事業系回収の両面から、実態調査とデータ収集強化をおこない、エビデンスに基づく精度向上に取り組んでいます。

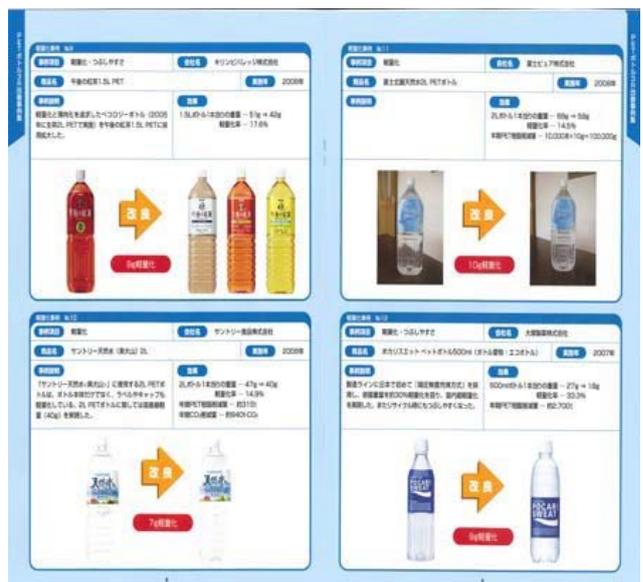


ガラスびんのマテリアル・フロー図(平成20年度)

●PETボトル3R改善事例集を作成

◇PETボトルリサイクル推進協議会では、PETボトルの3R活動の見える化を推進するため、会員企業の「PETボトル3R事例集」を計画しました。

2009年度は、今後の見本となる様な「PETボトルの環境配慮設計」の観点から調査を行い、33件の内容を事例集にまとめました。今後とも、改善事例の収集を加え、内容の充実を図っていきます。



PETボトル3R事例集

●組成分析などの現場調査を実施

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別収集の実状について8市のヒアリング調査と、3市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、毎年、組成分析調査を継続して行い、その成果を基礎資料にしています。



プラスチック製容器包装の組成分析調査

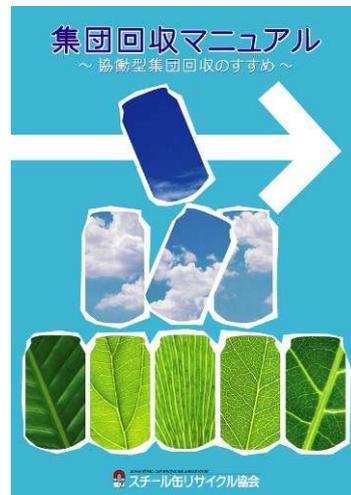
●高付加価値再資源化状況・集団回収状況の調査

◇スチール缶リサイクル協会では、スチール缶の一部が、高付加価値化のためシュレッダー処理され、缶スクラップ以外の規格で製鉄原料として再資源化されている状況を把握すべく、全国北海道から九州まで、シュレッダー処理量の多い鉄スクラップ取扱事業者を訪問して現地調査を行いました。



鉄スクラップ取扱業者現地調査

また、2005 年度から実施している集団回収に関わる調査・研究の集大成として「集団回収マニュアル ～協働型集団回収のすすめ～」を作成しました。



集団回収マニュアル

●家庭から排出される段ボールなどの調査

◇段ボールリサイクル協議会では、(財)古紙再生促進センターから委託を受けて、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区分別排出量の調査(2009 年 9 月)、また独自に段ボール製造事業所における段ボールのリサイクルマークの印刷調査(2007 年 10 月から 3 か月ごとに実施)を実施しています。

家庭から排出される段ボールの用途別構成比

	平成 20 年	平成 21 年	前年と の差
電気器具・機械器具	9.1	6.8	▲2.3
薬品・洗剤・化粧品	3.1	3.2	0.1
食 品	10.1	11.0	0.9
ビール等酒類	11.2	11.1	▲0.1
飲 料	24.8	27.4	2.6
青果物	12.8	12.4	▲0.4
繊維製品	1.2	1.3	0.1
ガラス・陶磁器・雑貨	2.7	3.3	0.6
宅配・引越し・通販	15.3	13.5	▲1.8
その他	4.4	5.1	0.7
不 明	5.3	4.9	▲0.4
合計	100.0	100.0	0.0

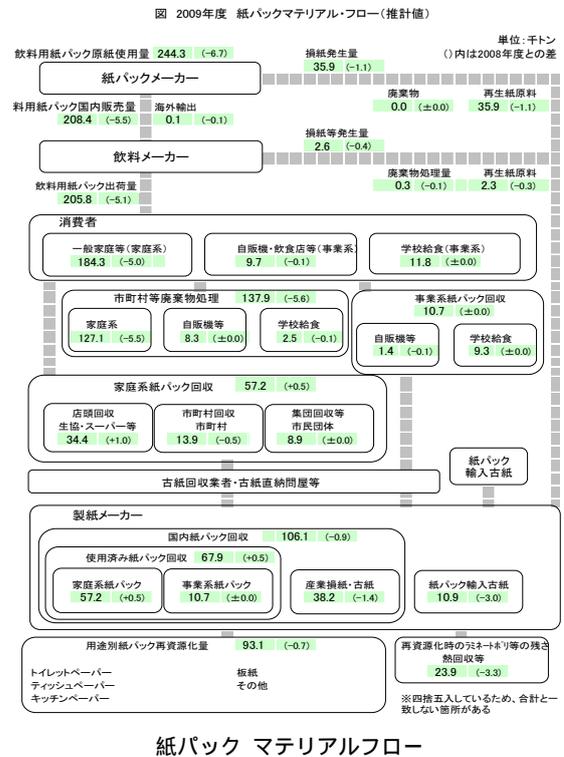
●リサイクルフローなどに関する調査

◇アルミ缶リサイクル協会ではリサイクル率に影響する使用済アルミ缶の海外輸出について調査を行っていますが、今回韓国の現地にて合金メーカー、業者関係者を訪問し実態を調べ韓国の日本からの使用済アルミ缶輸入量についての精度向上に努めました。



韓国二次合金メーカーのストックヤード見学

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、1995 年より独自調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を毎年実施しています。資源のマテリアルフローの作成、紙パックの各分野単位の回収率や回収業者などが有償で買い取っている価格の掌握など、全般的な調査分析を実施し、その結果を公表しました。



3. 今後の取り組み

次期自主行動計画に向けて

当連絡会の自主行動計画も、最初の目標年度である 2010 年度を迎えています。目標の達成評価はデータが出揃う次年度を待たねばなりません。各団体とも 3 R の取り組みを着実に続けていく所存です。また、主体間の連携に資する取り組みも、この 5 年間でかなりの広がりや深化が得られたと自負しておりますが、消費者・自治体など関係主体のご意見・ご要望も取り入れつつ、さらに推し進めていかねばなりません。

当連絡会では、次の 5 年間に向けた自主行動計画の策定に向け、これまでの 5 年間の取り組みの総括と、3 R 推進に向けた新たな目標設定、連携の取り組みの展開を検討中です。今年度末には取りまとめ発表する予定ですので、引き続き消費者・自治体・国等の関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いする次第です。